

# (件名) 日吉ダムが桂川の河川水位低減に効果を発揮

【台風第2号 季節外れの襲来!】

- 平成23年5月29～30日 -

## (概要)

台風第2号の影響により梅雨前線の活動が活発となり、5月29日から30日にかけて近畿各地に大雨をもたらした。淀川水系桂川の日吉ダム(南丹市日吉町)上流域では、5月28日16時から降り始めた降雨の総雨量が178mmに達し、ダムへの最大流入量は毎秒355m<sup>3</sup>を記録しました。

日吉ダムでは、ダムから下流河川に流す水の量を少なくするため、最大毎秒208m<sup>3</sup>をダムに貯留し、京セラドーム12杯分に相当する合計約1,442万m<sup>3</sup>の流水をダム貯水池に貯め込みました。

今回、日吉ダムの防災操作によりダム下流の亀岡地点においては、約40cmの河川水位の低減効果があったものと推定され、ダムがなかった場合には、約7時間避難判断水位(4.00m)を超えていたものと想定されます。

【防災操作とは】大雨などの際、流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込むことでダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させることです。  
今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成23年5月31日



独立行政法人 水資源機構

## 発表記者クラブ

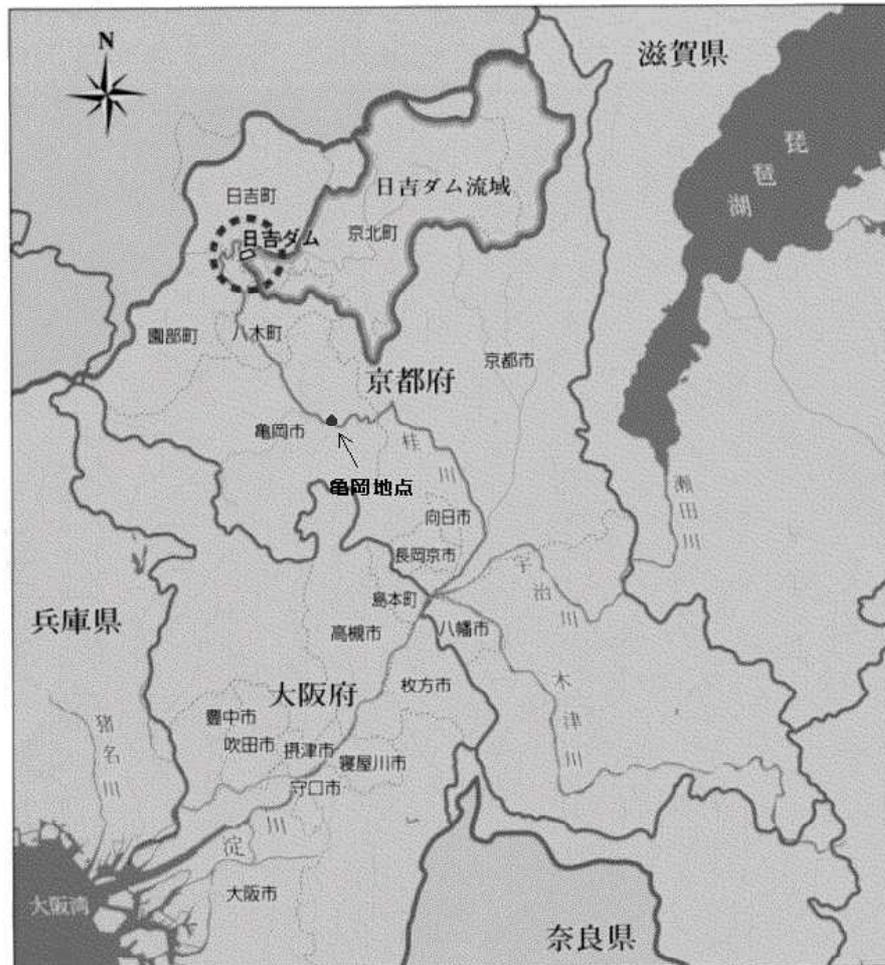
京都府政記者室  
南丹市政記者クラブ

## 問い合わせ先

国土交通省 淀川ダム統合管理事務所  
副所長 橋本 和夫(はしもとかずお)  
電話: 072-856-3131(代表)

独立行政法人水資源機構 日吉ダム管理所  
所長代理 後藤 孝(ごとうたかし)  
電話: 0771-72-0171(代表)

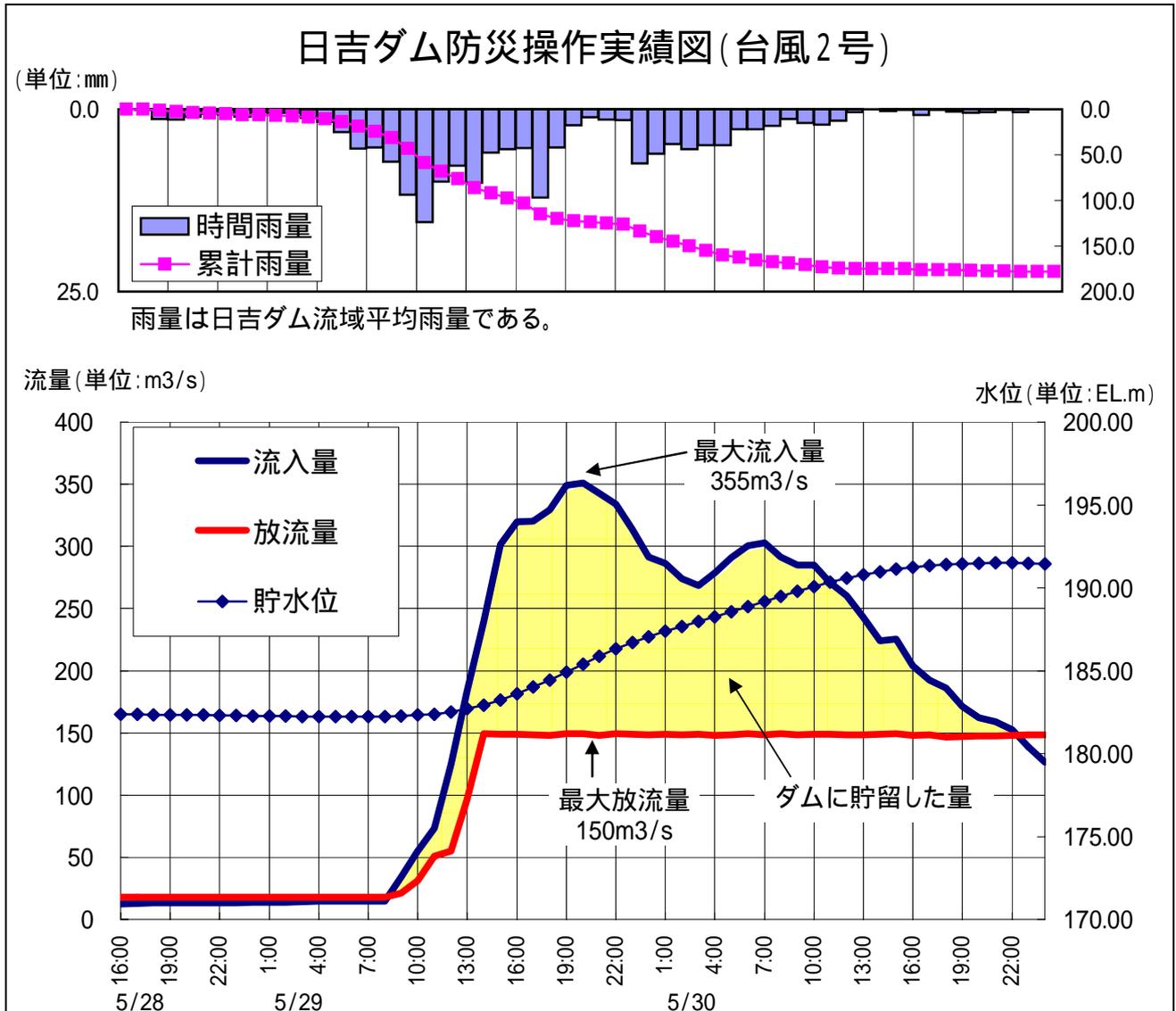
## ■ 淀川水系と日吉ダム流域



日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダムの効果発現に努めて参ります。

# 今回の降雨に伴う日吉ダムの防災操作について

・今年2回目の防災操作



## 管理開始(平成10年4月以降)の主な洪水の記録

順位	洪水名	流域総雨量 (mm)	最大流入量 (m <sup>3</sup> /s)	最大放流量 (m <sup>3</sup> /s)
1	平成16年10月 台風23号	238	856	150
2	平成22年7月 梅雨前線	170	698	150
3	平成10年9月 台風7、8号	161	550	114
4	平成18年7月 梅雨前線	273	494	150
10	平成23年5月 台風2号	178	355	150

順位: 最大流入量の大きい順

平成23年5月28日16時~平成23年5月30日22時までの日吉ダム流域平均総雨量

# 日吉ダムの防災操作により下流の河川水位を低減、避難判断水位を回避！

台風第2号の影響で5月29日から30日にかけて桂川の水量が増大しました。日吉ダムでは、ダムに流れ込む水の量より少ない量を放流（毎秒 $355\text{ m}^3$   $150\text{ m}^3$ ）することによって、流水をダムに貯め込み、桂川（亀岡地点）の水位上昇を約40cm低く抑えました。ダムがなかった場合には、避難判断水位を超えていた時間が約7時間であったと推定されます。

京セラドーム 12杯分に相当する水を日吉ダムにため込み、少ない量を放流することで下流の河川の水位上昇を抑えました。（京セラドームの容量を120万 $\text{m}^3$ として算出）

ダム堤体上流面



## 亀岡地点での水位低減効果(平成23年5月29日)

【日吉ダムの効果】

亀岡地点の河川水位を約40cm低減  
避難判断水位超過 約7時間 なし

